



特別養護老人ホームきずな
施設長 石田 陽子



あけあい会に就職して

私は今から 17 年前の 41 歳の時に IT 不況で失業し、ハローワークで次の就職先を考えようとした時ヘルパー2級の資格取得ができる話を聞き、「これからの仕事だ」と思いヘルパー2級を取得しました。

就職活動として4法人と面接を行い、職員育成へ力を入れているあけあい会（当時は明合乃里会）へ42歳で準職員として就職しました。入職当時はわからないことがあると娘や息子のような若い職員に聞きながら必死で仕事を覚えたことを思い出します。

自分自身の介護技術や知識の未熟さを痛感しながら体と頭を動かし、失敗も繰り返しながら徐々に「介護の仕事は自分の天職かもしれない」と思えるようになりました。

入職して4年目には介護福祉士の国家資格を、6年目には介護支援専門員の資格を取得のため、錆びてきていた脳みそで勉強し、日頃の業務の中から教えていただいたことや勉強のため家事を支えてくれた家族のおかげもあり、無事合格できた時「こんな年齢でも資格が取れた」と本当に嬉しく思いました。

日々の業務では利用者様からの「ありがとう」と「笑顔」は私にとって仕事のエネルギーとなり「この仕事について本当によかったなあ」「介護士になって幸せだなあ」と感じていました。

しかし一人前になれたのは自分の努力や先輩からの指導だけではなく、利用者様がいてくださるからこそ、私は一人前になってきたのだと思えてきました。

それは職員や実習生の指導をする立場になった時、排泄時介助を必要としている利用者様がいるから、入浴の時介助が必要な利用者様がいるから、生活全般の支えが必要な利用者様がいるからこそ私たち介護士は成長させていただいているという観点を持つことができました。そのことに気づき更に利用者様が安心して職員に任せられるそんな職員の育成を目指してきました。また職員に対しての視点も変わってきました。利用者様の生活を支えられる職員の育成していた時、利用者様だけが良くなるのではなく、働く職員も良くなるのが仕事の本質であり、職員にとって介護のやりがいや魅力の発見に繋がることも気づくことができました。

現在は未熟ながらも特別養護老人ホームきずなの施設長をさせていただいています。

今は施設長の立場になり、「利用者様と利用者の家族様の幸せ、職員と職員のご家族の幸せ、その輪が広がって地域の皆さんが幸せになれるように」努めていくことを芯に持ち、これからもこの仕事を続けたいと思っています。

16年前にあけあい会に就職し介護の仕事が続けて、私の人生が幸せになったことを今感じています。